

平成 25 年 12 月 6 日

報道関係各位

吉増剛造氏に福生市民栄誉章

福生市は、日本のみならず、世界的に活躍されている福生市出身の詩人吉増剛造氏に、福生市民栄誉章を贈呈することを決定いたしました。

福生市民栄誉章は、文化、スポーツその他の分野において国際的な評価を得る等での功績、業績が顕著であったと認められる個人又は団体に対して、名誉あるできごとがあった場合、栄誉の意を表すために贈呈するものです。平成 10 年、長野冬季パラリンピック大会で金メダルを受賞された土田和歌子氏について 2 人目の贈呈となります。

吉増氏は昭和 14 年生まれの 74 歳。慶応義塾大学在学中から詩作活動を始め、多年にわたる創作活動の中で数々の賞を受賞され、国においても平成 15 年に紫綬褒章を受章、本年、旭日小綬章を受章され、文化功労者にも選出されました。

幼少期を育ててくれた福生の町への思いは強く、様々な作品の中で取り上げていることはもちろんのこと、市主催の記念講演や周年記念事業にも御協力をいただいております。福生市民の生活に明るい希望を与え、福生市の名を高める多くの貢献をしていただいております。

そこで、このたびの文化功労者選出の栄えある機会に、福生市といたしましてもその多年にわたる功績に対し、福生市民栄誉章を贈り、その栄誉をたたえようとするものです。

なお、次のとおり顕彰式を執り行います。

【日時】平成 25 年 12 月 24 日（火）午前 11 時から

【場所】福生市役所 第一棟 2 階会議室

※招待者のみで行います

■本プレスリリースに関する問合せ

福生市役所 総務部総務課総務係 電話 042-551-1576（直通）

資料	—
平成 25 年 12 月 6 日 記者会見資料	

福生市民栄誉章の受章者について

ふりがな	よします ごうぞう		年 齢
氏 名	吉 増 剛 造		74 歳 (昭和 14 年生)
住 所	東京都福生市		
功績又は業績	分 野	文 化	
	(1) 活動	詩人。現代日本を代表する先鋭的な詩人の一人。また、詩の朗読にも力を入れ、詩における文字と声との可能性を追求、多彩な表現で現代詩のスケールを拡大した。	
	(2) 功績、成績等	紫綬褒章受章 (平成 15 年) 旭日小綬章受章、文化功労者 (平成 25 年)	
	(3) 活動の内容	詩集『黄金詩篇』(第 1 回高見順賞受賞)、『「雪の島」あるいは「エ ミリーの幽霊』(第 49 回芸術選奨文部科学大臣賞受賞)、『表紙』 <small>おもてがみ</small> (第 50 回毎日芸術賞受賞) ほか	
	顕 彰 予 定	平成 25 年 12 月 24 日 (火) 午前 11 時 福生市役所 第 1 棟 2 階会議室	
摘 要	吉増氏は、日本のみならず、世界を舞台に活躍されている現代を代表する詩人である。多年にわたる詩作活動の中で数多くの賞を受賞され、平成 25 年 11 月文化功労者に選出された。また、福生に対しても強い思いがあり、作品中の記述はもとより、市主催の記念講演や周年事業の協力等、福生市民に明るい希望を与え福生市の名を高めた。		

吉 増 剛 造 氏 略 歴

- 昭和 14 年 東京都杉並区阿佐ヶ谷で生まれる
- 昭和 20 年 福生に転居 福生第一国民学校（現・福生市立第一小学校）に転校
- 昭和 32 年 都立立川高校を経て、慶応義塾大学文学部入学
詩の創作活動を開始する
- 昭和 38 年 慶応義塾大学文学部国文科卒業
- 昭和 39 年 処女詩集『出発』を刊行
- 昭和 45 年 詩集『黄金詩篇』により第 1 回高見順賞受賞
（※現在、公益財団法人高見順文学振興会理事長）
- 昭和 54 年 詩集『熱風 a t h o u s a n d s t e p s 』で
第 1 7 回藤村記念歷程賞受賞
ミシガン州立オークランド大学客員教授
- 昭和 55 年 福生市立中央図書館で講演会 「福生と詩的なつながり」
- 昭和 59 年 詩集『オシリス、石ノ神』により第 2 回現代詩花椿賞受賞
- 昭和 62 年 城西女子短期大学客員教授
- 平成 2 年 詩集『螺旋歌』により第 5 回詩歌文学館賞受賞
- 平成 4 年 サンパウロ大学客員教授
- 平成 10 年 『「雪の島」あるいは「エミリーの幽霊」』で
第 4 9 回芸術選奨文部大臣賞受賞
- 平成 12 年 福生市制施行 3 0 周年記念事業で写真家荒木経惟と共演し、朗読を行う。
- 平成 15 年 紫綬褒章受章
- 平成 18 年 城西国際大学人文学部客員教授
- 平成 21 年 『おもてがみ
『表紙』』で第 5 0 回毎日芸術賞受賞
- 平成 25 年 旭日小綬章受章、文化功労者